青少年赤十字
JRCふくしま

編集発行
青少年赤十字
福島県指導者協議会
日本赤十字社福島県支部
〒960－1197
福島市永井川字北原田17
TEL024(545)7998

人間を救うのは、人間だ。
Our world. Your move.

主体的に生きる力を

日本赤十字社福島県支部　事務局長
篠木　敏明

今年の四月から日本赤十字社福島県支部事務局長を務めております篠木です。どうぞよろしくお願いいたします。

私は四月末に大信中学校において開催された青少年赤十字学校公開実行委員会に出席しました。

そこで懐かしい方々にお会いしました。かつて私が県教育庁で職員課長と人事企画担当庁参事を務めていた時に一緒に仕事をしていた皆さんでした。

その皆さんが校長先生となられてご活躍されている姿を拝見できて、うれしく思うと同時に、当時のことが懐かしく思い出されました。

青少年赤十字という形で、先生方とまた一緒に仕事ができることをうれしく思っております。

日赤の使命は、「人間のいのちと健康、尊厳を守る」ということです。

「救いたい」という気持ちを実現するためには、まず「気づき」、「考え」、そして「実行する」必要があります。

これは、青少年赤十字でも同様であり、態度目標として掲げております。この「気づき、考え、実行する」ことは、子どもたちの学びの主体性につながっていくものと考えます。

また、小中学校の新学習指導要領が提示しているのは、「主体的、対話的で深い学び」と聞いております。

ここの「主体的」とは、まさに「気づき、考え、実行する」態度であると思います。

私は、子どもたちが社会人になって、どのような仕事に就いたとしても、仕事をしていく上で「気づき、考え、実行する」は大切なことだと考えます。

小さいうちから、青少年赤十字の活動の中で、このような態度を身に着けることができれば、学習面の効果はもちろんですが、人間としても、心豊かで思いやりのある人間へ成長していくのではないでしょうか。

私は、青少年赤十字は、学習・教育とは別個のものではなく、学校教育の一環として、さらに言えば、学校教育そのものとして、推進していく価値があるものと考えております。

幸い福島県の青少年赤十字の活動は、指導者の先生方のご努力をはじめ、退職された先生方の青少年赤十字賛助奉仕団のご支援により、全国的にも高く評価されております。

日本赤十字社福島県支部は、指導者の先生方とともに、賛助奉仕団の先生方のご支援をいただきながら、福島県の子どもたちが青少年赤十字の活動を通して、学習面や日常生活において主体的に学び、主体的に生活できるように、そして心豊かで思いやりのある人間へ成長していけるよう、全力で取り組んでまいります。

青少年赤十字指導者協議会の皆様はじめ各学校の指導者の皆様には、今後ともご支援、ご協力をお願いいたします。

平成二十九年度 青少年赤十字福島県指導者協議会総会開催

JRC活動活性化のために、指導者の育成を!!

五月十一日（木）、日本赤十字社福島県支部において、福島県教育委員会教育長鈴木淳一様代理義務教育課主幹林和樹様、福島県青少年赤十字賛助奉仕団委員長藤田伸朔様のご来賓と県内各地区の会長が出席し指導者協議会総会が開催されました。

挨拶では、子供を取り巻く人間関係やコミュニケーション能力の変化に伴い、地域と学校が一体となって子供を育てる視点の重要性の確認、また元教員が母体となる賛助奉仕団の役割や教師の待ちの姿

勢が大切であるなどのお話を頂きました。

会議では前年度の事業・会計決算報告、活動の反省、今年度の努力目標、事業計画が審議され、全て承認されました。少子化に伴う学校統合や小規模校などで地区独自の活動や、トレセンへの参加、指導者講習会への参加などが難しくなっているなどの課題がある一方、前年度の実績として登録式を実施する学校が増えたこと、「まもるいのちひろめるぼうさい」を活用しての防災教育について各地区指導講習会等で多くの教員対象に講習会が実施されるなど期待が高まっているなどの報告がありました。

態度目標の「気づき、考え、実行する」は今学校教育で期待されている「主体的対話的な深い学び」に繋がるものであり、自ら考え、行動することの出来る児童・生徒の育成のためにも青少年赤十字活動の果たす役割は大きいと再確認することができました。

平成29年度　青少年赤十字 福島県指導者協議会役員名簿

役員名	氏　名	学　校　名
会　長	齋藤　吉成	福島市立福島第一小学校
副会長	星　　信男	喜多方市立高郷中学校
副会長	齋藤　雅敏	棚倉町立山岡小学校
副会長	富樫　　実	福島県立勿来工業高等学校
監　事	池上　　雅	保原町立富成小学校
監　事	中潟　宏昭	富岡町立富岡第一中学校
監　事	山内　正之	福島県立会津高等学校

平成二十九年度の主な行事（十月以降）

●青少年赤十字指導者研修会並びに学校公開
期日　十月六日(金)
場所　白河市立信夫第一小学校
　　白河市立大信中学校

●青少年赤十字指導者協議会第二回会長会
期日　十一月十六日(水)
場所　日赤福島県支部

●フィリピンユースメンバー受け入れ
期日　十一月五日(日)～十一月十一日(土)
　　福島県高等学校青少年赤十字連絡協議会秋季総会参加等

●福島県高等学校青少年赤十字連絡協議会秋季総会
期日　十一月十日(金)・十一日(土)
場所　郡山市磐梯熱海温泉　清陵山倶楽部

●詩・100文字提案作品表彰式
期日　十二月二十五日(月)
場所　日赤福島県支部

●青少年赤十字・スタディセンター
期日　三月二十二日(水)～三月二十六日(日)
場所　山梨県山中湖村東照館

平成29年度　青少年赤十字指導者講習会

つらい、楽しい、充実、仲間を感じた三日間

青少年赤十字が掲げる三つの実践目標「健康・安全」「奉仕」「国際理解・親善」の実現を図るため、日常生活で児童生徒一人ひとりの価値観を高める指導者の育成を図ることと青少年赤十字活動の振興充実を図ることを目的に、八月八日（火）～十日（木）の二泊三日、次頁の日程（別表一）でいわき海浜自然の家で開催されました。参加者は幼稚園一、小学校から三十三、中学校十六、高校二の五十二名となりました。

指示のない生活に始まり、ＶＳ（ボランタリー・サービス）や先見といった特徴あるプログラム、最終目標であるワークショップの完成に向けて熱く語り、悩み、自分自身と正面から向き合った三日間となりました。青少年赤十字への理解を深めるとともに、児童生徒の実践活動に生かしていくことができる内容となりました。

主な内容と講師

●講話
「赤十字と青少年赤十字」
学校法人松韻学園福島高等学校　ＪＲＣ顧問
根本　裕之

「ワークショップについて～学校教育への生かし方」
いわき市立菊田小学校長　**松本　光司**

● **防災教育**
「ＢＣＷ」
いわき市立小川小学校　**板倉　恵一**

● **講話**
「青少年赤十字と学校教育」
福島県教育庁県南教育事務所指導主事　**齋藤雅彦先生**

● **実践事例発表**
白河市立信夫第一小学校　**佐藤克浩先生**
白河市立大信中学校　**佐藤一彦先生**

● **実技演習**
「健康生活支援講習」
日赤福島県支部　**武田　玲子**

「非常炊き出し（ハイゼックス炊飯）」
日赤福島県支部　**久保　芳宏**

● **実技**
「フィールドワーク」

● **演習ワークショップ**
「ＪＲＣ活動をどのように学校教育に生かすか」
各ＨＲ担当

● **各班のＨＲ担当から**　**箱﨑　仁**

参加者はとても熱心でした。学校に帰ってからも今回考えたことを少しでも実践してください。

五十嵐堅一

それぞれの先生方が輝く場面を見ることができ、私も参加してよかったです。

浜津　昌宏

福島の未来のため、思いやりのある福島県人のため、輝かしい福島の子供たちの心を育てていくために、寄与していきましょう。

別表1　8月8日から10日　日程表

時刻	8月8日(火)	8月9日(水)	8月10日(木)
6：00			
7：00		起床・清掃（VS活動）	起床・清掃（VS活動）
8：00		朝の集い	朝の集い
		朝食、VS活動	朝食、VS活動
9：00	受付	先見	先見
10：00	アイスブレイク・記念写真撮影・開講式	講話「青少年赤十字と学校教育」齋藤雅彦T	ワークショップ（WS）［HR単位］
11：00	先見、VSについて	実践事例発表 白河市立信夫一小・大信中	
12：00	講話「赤十字と青少年赤十字」	フィールドワークについての説明	
13：00	昼食	昼食「ハイゼックス炊飯」「三角巾の活用」	昼食
14：00	ワークショップ（WS）「学校教育への生かし方」［HR］「自己紹介、役割分担、日程・内容等の確認」	野外活動「フィールドワーク（FW）」［HR単位］	まとめ（WSの発表）
15：00			閉講式
16：00	実技演習「健康生活支援講習」		解散予定
17：00	防災教育演習「BCW」	野外活動講評［HR］「活動の反省、一日の振り返り、これからの見通し等」	
18：00			
19：00	夕食、入浴	夕食、入浴	
20：00	交流会	［HR］自主活動時間	
21：00	［HR］「VS・ワークショップ等について」		
22：00	情報交換（スタッフ打合せ）	情報交換（スタッフ打合せ）	
23：00	消灯	消灯	

板倉　恵一

参加した先生方の学ぶ姿に、私も刺激を受けて、また新たな気持ちで取り組んでいます。

山内　真一

ＪＲＣ活動はこれからもずっと注目されます。児童生徒のために頑張りましょう。

松本　光司

「子どもたちのために」教師としてできることはたくさんあります。一つの実践が大切です。

松本　仁子

福島の教育を熱く語り合った二泊三日でした。デュナンに感謝。

根本　裕之

赤十字を知った今がスタート。人道の気持ちを子供たちに伝えていってください。

田村　良江

校種の垣根を越えて出会った先生方と共にたっぷりと語り合い、活動し学んだ三日間。そこで気づいたことを目の前の子供たちのために実践されていることを期待しています。

「気づき、考え、実行する」ための三つの工夫

三島町立三島中学校　**阿部　悟**

青少年赤十字の基本理念「気づき、考え、実行する」―言葉にすると単純明快で、常々繰り返される一連の流れにも聞こえます。しかし、気づいているはずなのに行動には至らないことも多いのではないでしょうか。廊下のごみを拾うこと、挨拶をすること、困っている人に手を差し伸べること―正しく価値ある行為と頭ではわかっているのに、様々な理由、例えば偽善者に見えるとか、面倒だと感じるとかで、善意の手は止まってしまうのかもしれません。自分にも恥ずかしながら思い当たる節があります。

ところが県ＪＲＣ指導者講習会に参加した三日間、私は「気づき、考え、実行する」ことを躊躇なく行うことができました。それは爽快でさえあり、たいへん幸せな時間を過ごすことができました。その背景として運営側の三つの工夫が挙げられます。

ひとつは「心をほぐすこ

と」です。いわき海浜自然の家に入所して最初の活動は「アイスブレイク」でした。緊張をゲーム形式の集団活動でほぐすこの手法によって、ほぼ初対面の研修者同士が、気づけば旧知の間柄のように談笑し合う様子に驚き、それを実現する手法と話術にさらに驚かされました。

また「空気をつくること」も大切でした。きれいに揃ったスリッパの脇には、次の人もきちんと置くものです。大切なのは「何が普通か」という空気です。この三日間は、誰かのために自分の力を発揮するのが普通の場として位置づけられていて、ときにはVS（ボランタリー・サービス）の時間が設定されていました。誰かのための行動を自然にとることができ、周囲からの労いの言葉も自然に発せられるという環境はとても居心地がよく、理想的でした。かつてある漫画で、誰もが理想や希望に燃える世界が描かれており、力強く義務を主張する登場人物の姿に憧れを抱きましたが、この講習会はまさにそういう場でした。

そして最も大切と私が考えるのは「誰かとつながっているという安心と自信」です。決して楽ではない三日間のカリキュラムにおいて、ともに意見を出し合い、認め合い、助け合った仲間との絆が、自分に自信と活力を与えてくれたように思います。校種も世代も勤務地も違う仲間達と分かり合えたのは、フィールドワークやワークショップといった活動・活躍の場でお互いに尊重し合い、生かし合えたからです。

こういう思いを生徒にも味わってほしいと私は学校に戻りました。今日もまた、気づきを促す一枚を掲示板に貼り出します。

新しいスタートはここから

郡山市立富田東小学校　小泉　梨奈

「気づき・考え・判断し・行動しよう！」私の担任する六年二組の合い言葉として、このフレーズを四月から子どもたちに伝えていました。しかし、言葉では伝えていたものの、具体的にどんな指導をしたらいいのか、どうすれば子どもたちが自主的に行動することができるようになるのか、模索している状態で一学期が終わってしまいました。そんな私にとって、この講習会は、「気づき・考え・実行する」ことの本質や教育との関わりを、実体験を通して学ぶことができた、とても充実した三日間になりました。

三日間の研修では、講話からフィールドワークまで、本当に様々な経験をすることができました。校種も経験年数も異なる先生方と班を組み、共に活動をしてきました。この指導者講習会に参加するに当たって、研修者自身が「気づき・考え・実行する」姿を求められました。最初は、初対面の先生方と活動をすることに不安もあり、なかなか自分から動くことができずにいました。しかし、多くの活動を通して、協力することの大切さ、自分の意見を伝えて受け入れてもらえたときの喜び、活動が成功したときの達成感が、私たちの班のまとまりを強めてくれました。また、ワークショップの時間では、それぞれのクラスの具体的な課題を出し合い、解決に向けて班のみんなで話し合いました。多くの課題が挙げられましたが、一人では気づかなかった解決方法が分かったり、課題に対していろいろな視点から考えることができたりと、とても有意義な時間でした。最終日の発表会では、各班工夫を凝らした、おもしろくて楽しい発表ばかりで、私も先生方のようなすてきな先生になりたいと思いました。

すべての日程を終えると、青少年赤十字の活動内容の習得と同時に、二学期に向けての学級経営の見通しまで見えてきました。私は、クラスの子どもの一人一人の主体性を伸ばすために、この「気づき・考え・実行する」という言葉をかけてきました。でも、この言葉は一人では成り立ちません。共に気づき考えてくれる仲間がいるからこそ、行動まで移せるのだと感じました。改めて、人とのつながりの大切さを感じ、このことをクラスの子どもたちに伝えていきたいと思いました。六年生の後半、たくさんの指導のアイディアという財産をもとに、二学期からも子どもたちと一緒に頑張っていきたいと思います。運営スタッフの皆様、そして研修を共にした先生方、本当にありがとうございました。

平成二十九年度　青少年赤十字リーダーシップ・トレーニング・センター

指導者養成講習会

平成二十九年七月二十三日(日)～七月二十五日(火)

場所：国立オリンピック記念青少年総合センター

青少年赤十字リーダーシップトレーニングセンターに参加して

福島県立勿来工業高等学校　吉田　智洋

平成二十九年度青少年赤十字リーダーシップ・トレーニングセンター指導者養成講習会が七月二十三日～二十五日の三日間、国立オリンピック記念青少年総合センターで行われました。

この講習会は、リーダーシップ・トレーニングセンター（以下トレセン）の企画や運営にあたる指導者を養成することを目的としており、その指導者が企画運営の具体的知識や技術、トレセンの教育的意義を十分に認識していることが求められます。一日目の青少年赤十字と学校教育やトレセンの運営についての講義で、トレセンに参加する児童・生徒たちのメリットは、指示待ちにならない・注意深い生活をおくる・自分の考えを持つ・自分にチャレンジする・他のために自分を生かすようになります。又、指導者においても、講義やフィールドワークを担当されるコアスタッフやサブスタッフをすることで新たな刺激を受けたり、児童・生徒が自分で気づき・考え・実行する力を身につけ、リーダーとして成長する姿が見られることは、うれしいことではないかと思います。その為には、児童・生徒が動けるように教えて、あとは常に待ちの姿勢です。始めから指示を出したりせず見守りに徹し、どうしても分からないときは相談に乗りアドバイスをします。

次に、防災教育プログラムの竹ひごタワー（以下タワー）です。目標が皆で協力してルールに従い、一番高いタワーを十分で作るとなっていますが、ここで大切な事は意思の疎通をし、細かく分担した上で作業が出来たかということです。役割分担を決めた後、一回目は百三cm、二回目は一回目の記録よりも高いタワーを試みたが失敗してしまいました。よって、高さにとらわれずに強度のあるタワーを作るという考え方も必要であると思いました。二日目に行われたフィールドワークでは、封筒に入っている指示書を見て行動したり、俳句を考えたり、数字による指示に従いグループがはなれないように協力して進んで行くなど、今まで体験していないフィールドワークが多くあり、県TCにも活用できるのではと感じました。また、絵伝令において、絵を省略して文字だけのグループがあり、限られた時間の中で確実に情報を伝えることを重視した考えとしては良いのではないかと思いました。三日目のワークショップこれからの活動を考える「計画・発表準備」は、約二時間しかないので、トレセンで考えていたのでは発表まで間に合わないと思いました。三月に全国スタセンに参加した生徒から資料を借りて事前学習を進めながらどのような活動計画にするか考えました。「文化祭に献血車を呼んで献血キャンペーンをする」というテーマで目的や場所・概要をまとめたので、予定された時間内に発表まで進めることが出来ました。三日間のトレセンをとおして、コミュニケーション能力を高めること・冷静に判断すること・臨機応変に対応し修正する力や牽引していく力をもつことがリーダーシップなのではと感じました。この度の講習会にあたりご指導いただきました指導スタッフの先生方、日本赤十字社本社スタッフの方々に心から感謝申し上げます。貴重な経験をさせていただきましてありがとうございました。

JRCリーダーシップ・トレーニング・センター指導者養成講習会に参加して

西会津小学校　山形　美幸

「今は何をする時間かな。」これは、私が子ども達によく声かけする言葉です。また、「自分で考えて行動できるようにならないといけないよね。」これも、先程の言葉に重ねて、私が子ども達に向けてよく使う言葉です。

今回、この講習会に参加して、私は、初日から、「子ども達も日頃こんな気持ちだったのかなあ。」と、とても申

し訳ない気持ちになりました。事前アンケートにさえ、何を書いたらいいのか分からない、つまり、青少年赤十字のこともよく知らずに講習会に参加した私は、「これから三日間何をさせられるんだろう。」という不安しかなかったのです。そんな状態で始まった講習会では、「気付き、考え、実行する」ことが大切で、それを学校生活にどのように生かしていくのかを考えることが中心でした。講義の内容を頭では理解できるものの、いざ実行となると全く思うように動けない自分。特に、防災教育の「竹ひごタワーづくり」や「ドローイングチャレンジ」などでは、言われた事をやっているけど、自分の活動が合っているのか、不安だらけの状態でした。そんな中、その日のホームルームで、自分の今の心境や青少年赤十字の活動について考えることを話すうちに、「待ってるだけじゃダメなんだ。失敗してもいいから、自分からやってみればいいんだ。」という思いが沸々とわいてきました。日本各地から集まり、今日初対面の先生方が、とても温かく話を聞いて下さる、また、同じように不安ながらもこの講習会に参加している先生もいる、そう思ったらとても気持ちが楽になり、「あと二日、自分からやってみよう。」という気持ちが持てたのでした。その後は、その日の夜から、同じホームルームの先生方とアイデアを出し合い、アイスブレイクのネタ探しやボランタリー・サービスへの協力など、初日の不安が嘘のように楽しく活動することができました。

学校でも、「やってみたい」という気持ちは持っているのに、「自信がない」「何をやったらいいのか分からない」という子ども達の様子をよく見かけます。「やってみればいいじゃない。」と、先が分かっている私は、つい子ども達の活動に口を挟んでしまうことも多いのですが、今回、「待つことの大切さ」について考えさせられた私は、講習会で私の話を温かく見守って下さっていた講師の先生や同じグループの先生方の眼差しに私自身が安心したように、これから、子ども達をしっかりと見つめ、活動を温かく見守っていきたいと感じました。また、子ども達が楽しんで、「自分からやってみよう。」と活動できるような「しかけと準備」についても、今後、講習会で学んだことを活用し、試行錯誤しながら取り組んでいきたいと思います。

７月23日から25日　日程表

於：国立オリンピック記念青少年総合センター

時刻	７月23日(日)	７月24日(月)	７月25日(火)
7：00			
8：00		食事 @センター棟　カフェテリアふじ	食事 @センター棟　カフェテリアふじ
		先見	先見
9：00		朝の集い	朝の集い
10：00		「青少年赤十字とリーダーシップ」	ワークショップ これからの活動を考える 「計画・発表準備」
11：00	受付	「赤十字が提供できるプログラム」	
12：00	開会式・オリエンテーション・アイスブレイク・写真撮影		
13：00	食事 @センター棟　カフェテリアふじ	食事 @センター棟　カフェテリアふじ	食事 @センター棟　カフェテリアふじ
14：00	「青少年赤十字と学校教育」	「フィールドワークの運営について」 フィールドワーク 講評	ワークショップ 「発表・講評」 「まとめ・ふりかえり」
15：00	「トレーニングセンターの運営について」		まとめ（アンケート用紙提出）
16：00	ホームルーム		閉会式
17：00	「青少年赤十字防災教育プログラム」		
18：00	荷物の移動・食事 @センター棟　カフェテリアふじ	食事 @センター棟　カフェテリアふじ	
19：00	ホームルーム @センター棟　各HR会場	ホームルーム @センター棟　各HR会場	
20：00	自主研修	自主研修	
21：00	入浴		
22：00			
23：00	消灯・就寝		

県北地区青少年赤十字トレーニングセンターを開催して

伊達市立富成小学校　池上　雅

「去年より楽しかった。」

「短い時間だったけど、絆を深められてよかった。」

「ものすごく楽しかった（他校のお友達に対して）来年も一緒に参加しよう。」

活動の振り返りの場面では、子どもたちの充実感・満足感が感じられるこんな声を聞くことができ、とても嬉しく思っています。

県北地区青少年赤十字トレーニングセンター・指導者講習会（以下、トレセン）は、一昨年度までは福島一小を事務局として毎年福島地区内の施設を会場として開催をしていました。平成二十八年度からは、安達・伊達・福島の各地区が輪番で事務局を担い開催することとなったため、本地区では初めての開催です。

事務局となった本校では、当初「見たことも、やったこともない職員ばかりで、できるのか？」との不安の声が上

がりました。引継ぎは行ったものの、書類だけでは見えないことが多々あり、当然前事務局に連絡を入れて確認を進めるとともに、知識も経験も豊富な日赤福島県支部や賛助奉仕団の皆様には、多くの助言をいただきました。

特にフィールドワークの活動内容については、前年度の視察をとおして森の案内人をガイドとした自然観察と思い込んでいましたが、後に勘違いと気づいたこともあり、根本的なことから具体的に説明をしていただきました。

活動プログラムについては、過去二年間同じ内容を実施していたため、青少年赤十字の実践目標の一つである「国際理解・親善」の内容を新規に取り入れることにしました。国際交流協会の協力を得て、タイと日本との文化の違いをゲームをとおして学ぶ国際理解演習です。

フィールドワーク　闇夜の国

トレセン当日に向けて準備を進めていくにつれ、職員同士がお互いに知恵を出し合い、一丸となっていく姿を見ることができ、事務局を引き受けてよかったと思うことができました。

また、会場となった本校は、全校児童二十名の人とのかかわりが限定的な小規模校です。今回のトレセンでは、他の学校の子どもたちや高校生とすぐに打ち解け、楽しそうに活動している姿を見ることができました。いい交流ができ、思い出に残る経験ができたと、会場校の校長としても、嬉しく思っています。

国際理解を深めよう

トレセン事務局が輪番制になり本年度は二年目です。今後、より一層円滑にトレセンを運営していくには、毎年八月に開催される県青少年赤十字指導者講習会への地区からの参加者がトレセン実行委員として機能する組織編成と賛助奉仕団をはじめ各種協力機関との綿密な打合せを重ねることが欠かせないと感じています。

主な内容と講師（敬称略）

- **国際理解演習**
  「これってアリ？」
  国際交流協会　**竹田　朋彦**
- **実技**
  「救急法講習会」
  県北地区賛助奉仕団　**大浪　政輝**
- **実技**
  「非常炊き出し（ハイゼックス炊飯）」
  県北地区賛助奉仕団　**大浪　政輝**
- **実技**
  「フィールドワーク」　**指導スタッフ**
- **活動の振り返り**　**指導スタッフ**

平成29年度　各地区トレセン開催状況

		地　区	月　日	会　場	参加人数	主な内容
トレーニングセンター	小・中学校	福島・伊達・安達	7月27日㈭	伊達市立富成小学校	16名	赤十字救急法講習、国際理解、フィールドワーク
		郡山	8月9日㈬・10日㈭	郡山少年自然の家	55名	講話、赤十字救急法、グループワーク、フィールドワーク
		西白河	7月27日㈭	表郷小学校	47名	赤十字救急法講習、非常炊き出し
		会津・北会津	7月31日㈪	国立磐梯青少年交流の家	68名	講話、赤十字救急法講習、フィールドワーク
		耶麻	8月2日㈬	福島県会津自然の家	88名	講話、赤十字救急法講習、野外炊飯
		両沼	7月28日㈮	福島県会津自然の家	74名	講話、赤十字救急法講習、仲間つくり活動
		いわき	7月28日㈮	いわき市立好間第一小学校	43名	講話、赤十字救急法講習、防災教育、フィールドワーク
	高校	県高校	7月6日㈭～8日㈯	国立磐梯青少年交流の家	74名	国際人道法、JRCのリーダー、フィールドワーク、ワークショップ等
		県北	8月3日㈭・4日㈮	日赤福島県支部	42名	非常炊き出し、国際理解、視覚障碍者の理解、防災演習、応急手当
		県南	7月27日㈭	日赤福島県支部	33名	救急法基礎講習、非常炊き出し、支部施設見学
		会津	8月9日㈬	福島県立会津高校	11名	非常炊き出し、災害図上訓練「DIG」
		いわき	8月10日㈭	いわき生涯学習プラザ	42名	講演、認知症サポーター養成講座、高齢者疑似体験

平支援学校ボランティア部の活動について

教諭　青木由紀子

本校のボランティア部は、創部五年目となり、現在十名（男子四名、女子六名）で活動しています。創部以来、いわき地区ＪＲＣと交流を続け、昨年より加盟しました。

本校のボランティア部では、「お互いさま」を合言葉に、自分達にできるボランティアを行っています。「お互いさま」という合言葉は、自分達は支援されるだけでなく、支援していく側になりたい、積極的に支援され、積極的に支援していくという思いから生まれました。

直近の具体的な活動は、九州豪雨災害の義援金の募金活動や献血の呼びかけ、古本の回収等を行いました。また、ＪＲＣ地区大会や県大会に参加し、「健康・安全」「奉仕」「国際理解・親善」について学んだり、他校生との交流を行ったりしています。今年度、新入部員が五名入部し、先輩の姿を見ながら活動を行う様子も見られました。募金活動や献血の呼びかけでは、普段は知らない人達に対し消極的になってしまう生徒も大きな声で呼びかけたり、どのようにしたら多くの人に活動を知ってもらえるかなどを自分達で考えたりする機会となりました。呼びかけに応じてくださった人から「頑張ってね」と声をかけられたり募金をしてもらえたりした時は、嬉しそうな表情を見せていました。生徒から、「いつもは、このような呼びかけはあまり意識していなかったが、自分達で行ってみて呼びかけをする大変さが分かりました。」という感想がありました。そして、夏休みには、いわき市社会福祉協議会主催のサマーショートボランティアに参加する多くの高校生の前で講演をし、自分達が行っている活動の内容や思い・考えを伝えてきました。講演をしてきた生徒からは、「このような講演を通してボランティア部を知ってもらえてよかったです。」という声も聞かれました。

ボランティア部では、このような活動を行っていますが、ＪＲＣに加盟することで、いわき地区や福島県内のＪＲＣ部の高校生に自分達の活動を発信したり、他校生の全国大会での幅広い活動発表を聞いたりと学びを深める場が広がりました。秋には、県大会にフィリピンのＪＲＣメンバーが参加する予定があることを知り、今から生徒達は楽しみにしています。このように本校のボランティア部の生徒達は、ＪＲＣ加盟を通して、社会と連動した活動ができるようになりました。

あとがき

平支援学校の合言葉「お互いさま」大切にしたいですね。

会報作成にあたりご多忙のところ原稿をお寄せいただいた皆様に感謝申し上げます。

赤十字の豆知識…⑥

「日本赤十字社福島県支部の創立」

日本赤十字社は平成29年で128周年を迎えました。

日本赤十字社の前身「博愛社」は1877年（明治10年）が誕生、1887年日本赤十字社と改称し社費や寄付金を納めて本社に送ることを任務とする地方委員を置く委員部の設置を進め、この年、東京を始め19都道府県、翌年８県に設置されたが、福島県には委員が一人もいなかった。

1888年７月15日午後８時に突如磐梯山が噴火し、その死傷者は約500名にのぼった。20日、日赤本社は救護員３名を派遣する。郡山下車、徒歩で中山峠を越え、翌日猪苗代町に到着し救護にあたった。24日佐野常民社長も現地を訪れ慰問した。この活動が日本赤十字社の平時活動の最初になった。

この活動が大きな契機となり、翌1889年福島県に委員部が設立され、次第に社員数も増加し、1,000名という条件を満たし、1894年福島支部となり、1952年（昭和27年）福島県支部と改称した。

委員長、支部長は県知事で、県庁内に事務所を設けていたが、社業の拡張により1902年福島支舟場町に洋風の二階庁舎を建設移転。1971年社屋の老朽化と血液事業の県から日赤への移管を受け、福島市渡利に「福島県支部・福島県血液センター」を建設した。さらに1998年現在地に「福島県赤十字会館」を建設移転し活動を続けている。